

墨 潮

発行 兵庫県水墨画協会
 理事長 盛 静山
 本 部 神戸市東灘区大谷町
 2-13-3
 〒155-8545
 078-771-7001

公募展をふりがえて

理事長 盛 静山

コロナウイルス感染が確認されてからおよそ三年、病原体も変異を繰り返した未だ収束していない。それに、ロシアの世界の人々の思いを無視したかのようなウクライナ侵略で、平和が脅かされています。

そんな中で会員、出品者のご協力により公募展を開催し、無事終了することが出来ました。心から御礼申し上げます。
 展覧会場には「創作」「小品」「くらしのアート」「ジュニア」の各部門の作品一〇六点が展示されました。

後援の神戸新聞社の記事による協力もあり、連日、多くの来場者があり、中には三回も鑑賞に来られた方もありました。

審査員の講評の中には、「最近感

のある日常的な生活、風景を描いた作品がありとても良かった。」

また、「古来からの水墨画精神「気韻生動」が生かされた作品もありとても良かった。」という指摘を頂戴しました。

来場者のアンケートの中には、「水墨画のすばらしさを知り感動しました」「日常生活と違った世界にいる様です」「作品の技法と精神性の心を鑑賞できて良かった」等、多くの喜びしい内容での投稿がありました。

来年は、皆様と更に交流を深めるために、作品の前で鑑賞の場を設けたいと思っております。

会員の皆様と、交友と親睦を保ちながら、水墨画の美しさを求めて、「楽しい人生」「幸せな人生」を念



頭に平和を願いながら共に歩みたいと考えております。

会員の皆様の心のこもった作品を期待しております。出品の程よろしくお願ひします。

展示会を終えて

副理事長 小谷 晴宝

コロナウイルス感染予防の制約のある中、皆様のご協力により、展示会を開くことができました。

来場いただけただけの皆様にも大変好評でしたし、出品者同士も和やかな雰囲気の中で交流できていたと感じることができました。

ところで、最近の私の経験したことで要約ですが、「水墨画」というものが、世の中にどう受け止められているのかを考えさせられる出来事がありました。

私が、小学校の出前授業を行っていたときのことです。子供達に「雪舟」の作品を見せると、「田舎の床の間に飾ってあったよ」に代表されるような意見が多数出ました。その時、私は、ああ、一般的には水墨画というものは、「山水の掛け軸」というほどの理解でしか

受け止められていないのだなあ、つくづく感じさせられました。

「水墨画を描ける人」を増やすことも大変重要ですが、その中に「水墨画が好きだ」という人を、どれだけ増やすことができるのか、とても大事だと思います。

伝統的な水墨画は、長い歴史の中で、筆墨そして多くの技法等から生み出されてきましたが、私は、「伝統文化」には変えることのできない「不変の要素」と、時代と共に、その時代の人々によって生み出される「可変の要素」があると思っています。

筆の「線」と「点」と「面」、墨の「み」や「かすれ」を生み出す「墨の表情」、そろうした創意工夫を、ご自分の作品に大いに生かすという行為の中から、新しい「要素」が生まれ、水墨画の境になってしまっただご自分を見えることだと思います。

私たちの協会が、現代を生きる若い人々にも水墨画に興味を持っていただき、新しい時代の水墨画を発信できる場となれば、と願ってやみません。

審査員の講評

女子美術大学

名譽教授 橋本 弘安

兵庫県水墨画協会公募展の審査会に、昨年はコロナ禍もあり欠席いたしましたでしたが、本年参加する事が出来、出品の皆様の実験な作品の数々を拝見しました。

▲湯立神楽V

神楽のひとつで、釜で湯を煮えながら神事を行い、無病息災、五穀豊穡を願うものと言われているが、巫女が湯のあがる方向を見上げ、その湯気の上方向への曲線と共に未来への明るい願いを感じさせる作品で、審査員、皆が賛同し大賞となりました。

▲願いを託すVとした藍の作品も、力強さが願いとなっているような秀作でした。

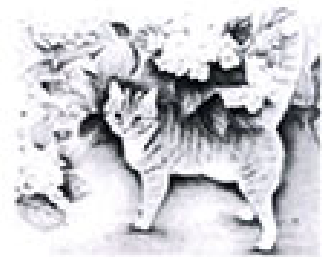
▲傘寿のはほえみVは、優しい表情を全面に出したほほえましい作品でした。

▲観Vは、何かユーモアを感じると楽しい作品でした。

入賞の数々Vは、ていねいな明るい作品で、好感を持ちました。特に、入賞された作品は、それぞれに工夫が感じられるよい作品で、審査にまよう秀作ぞろいでした。



兵庫県知事賞



「梅雨晴間」
大江 都紀子



兵庫県水墨画協会大賞



「瀧立神楽」
的場 哲也



神戸市長賞



「雨洗胡々浄」
林 静佳

コロナ禍の影響がじわりとこの公募展にも及んできたようだ。応募数も減ったようだし、大作の数も減ったことは残念なことだ。しかし、コロナ禍も次第に収まる傾向にあり、来年の公募展に期待したい。

西宮市大谷美術館

部長 越智 裕二郎



今年の展覧会は、外での取材に基づく景物が減り、室内で描いたと思われる作品が多かったことが特色としてあげられようか。しかしながら連筆の作品も多く見られたことは幸いであった。

兵庫県知事賞 ▲梅雨晴間V

この作品は、おそらく庭のあじさいを横切った猫の、ふと足を止めた瞬間を描いたもの。猫の表情がすばらしく恐らく猫好きの作者の普段から猫を見続け、描いてきている力が遺憾なく発揮されている。あじさいの花、葉、墨のパラシスも絶妙である。

この作家を含め、次回の公募展での他の作家たちの飛躍を拝見できることを楽しみにしている。

日中書道芸術交流協会

会長 陳 允陵



今年の出品作品は年々よりレベルが高くなってきたと印象を受けました。伝統的な技法で描かれた作品がたくさんある中、日常的な生活、風景を描いた作品は親近感があり、とても良かったです。上位入賞作品はそれぞれの特徴があり、完成度も高いです。単に

見たものをそのまま写し出すことではなく、水墨画の技法を巧みに駆使して自由に表現されて、見る人に迫力と墨の良さが伝わってきました。

神戸市長賞 ▲雨洗胡々浄V

この作品は、堂々と強い筆のタッチで描かれて、題名の通り風と雨の荒々しさをうまく余白を利用して、自然界の気韻と動きを作品からその姿勢が強く見えてきました。作品の構成と筆墨の表現力ある一秀作です。

水墨画は一つの芸術であり、形より精神性が重視され、余白を大切にされることはその一つの魅力です。来年の力作を期待しております。



受賞者の作品への思い

岡あわじ市 的場 哲也

今回大賞をもらった事、少々戸惑っております。これがとても一善良い作品とは、自分自身思えないのです。

でも、賞を頂けたことは、とても嬉しいのです。

今回の作品、二年間イメージを温めてきたものだったんですが、イメージ通りうまく表現できず、あらためて水墨画のむつかしさを思い知りました。

まず、紙の選次の失敗、白い水を表現したくてドーサを使ったのに思うようにならず、墨色がきたなくなってしまう、水(湯)の表現がイメージ通りいかなかった事です。でも、絵の勢いと気の流れはうまく表現できたかなと思っております。

これからも、もっと勉強をし、楽しみながら絵を描けるようになれたらなぞと思っています。ありがとうございました。

加古郡播磨町 大江 都紀子

うっとりとした梅雨、気分の上がる、季節感のある絵と思い、普陽花の下でのびのびしている葉を描くことにしました。葉は毛の質感を意識しました。

普陽花が難しく試行錯誤しながら何枚も描き仕上げましたので、評価して頂きほんとうに嬉しかったです。

いつも出展された皆様の作品を見て刺激を受けるので、毎回開催を楽しみにしています。

川西市 蔵本 千波

真白い画仙紙に描き始める時のワクワク、ドキドキ——、この緊張感を楽しみながら制作へと進みます。教わった基礎を大切に、描いているうちに、どんどん世界が広がっていく水墨画は無敵大だと思えます。

今回、受賞させて頂いた作品は、海、動きのある波に挑戦しました。まだまだ水の動きをどうとらえ表現することが出来るか課題です。

「水墨画の美しさ」

盛 静山

墨には色彩がありません。白にも色彩がありません。色彩の無い白に色彩の無い墨で描く水墨画は絵画表現の原点だと思えます。原点を踏まえた心で描かれた作品は色彩の無い「無彩色の美しさ」と深味」があります。美は永遠に続きます。

出てきたことでした。

二つめは、尺八の古典本曲「曲鈴」(うぶさき)を静かにして薄と山のようなものを吹きたいと思いました。

「天空の城」(竹田城)ということもありましたが、日光に何度か

茨木市 高岡 秀子

様、審査員の先生方、会員の皆様、御挨拶になりました。

飛瀑を出展しました。水の流れにはいろいろな表現があって、大量に落ちる滝、小さな滝など、それぞれ水の流れには同じものはありません。誰が見ても、水が流れて滝のさわやかな水の音が聞こえてくるような——、表現にしたいと思い、描きました。

明石市 井上 賢一

テーマ「露の千疊ヶ原」については、二つの思いがありました。

一つめは、「夏がくれば思い出す…露の中でうかびくる…」のような「夏の思い出」のイメージが

西宮市 生野 勝正

「戦場ヶ原」について、何か悪いイメージがあるように感じ、「千畳ヶ原」と名称は変えました。そのようにしてできた「露の千畳ヶ原」をテーマとすることにしました。

私自身の生活のうえで、水墨画を、どのように、あふれさせるか、自分自身の心象風景をどうやって表現していくか。心の中に感じた

表現、心のままに表現し描くよろこびが感じられるように、また、無限のひろがりを感じたいという思いをもたせるように、自分自身の魂

の充実の一助となるように望み込んでおります。

今回の公募展に「記憶」「四夜」を出品させていただき、生命エネルギーの表現に留意いたしました。それに「気」の表現、構図、題名の表現も、考えさせられました。

今後とも、切磋琢磨しながら、交流あるのみです。公募展中でのご指導、ご鞭撻の程、ありがとうございます。

大阪市生野区 入口 佳代子

墨彩画でバラの花を描きました。題名は、幸の凱歌、とつけました。

が、平和な時代になって欲しいとの思いを込めて、名づけました。コロナウイルス、ウクライナへの侵攻と、今迄経験した事のない時代になり、毎日心を痛めている日々です。その中でも人間は必ず乗り越える知恵と勇気をもっていると信じ、必ず平和は訪れると思

います。

次の時代を築いてくれる子供達のために、自分が少しでも出来る事を考え、前向きに進んでいきたい。そして、平和の歌を高らかに響かせていきたいです。

去年の作品と同じ古典作品から派生したものです。

杜雨の「杜少陵集(巻十四)」

雨洗娟々浄 あめはあらいてけんけんとしてきよく
風吹細々香 かぜふきてさいさいとしてかんばし

雨が洗うというのは空気を浄化していくさまである、遠くかすかに出る景色を表現致しました。

このご時世、早く平和になりますようにという思いを込め



ました。
今年も、子供たちの出品ができてよかったです。いつまでも水墨画を楽しめますように!

神戸市西区 林 静佳

「雑感」

小谷 鶴宝

水墨画家の坂上裕将氏が書いた「雑感、僕を描く」という本に出会いました。西親を事故で失い喪失感の穴の中にあつた青年が、ふとしたきっかけで水墨画の巨匠に出会うことから物語が始まります。まだ読んでいない方のために詳しい説明はしませんが、筆を持ったこともない主人公が内弟子となり、様々な体験や経緯を重ねていく青春小説です。書道を題材とした漫画はいくつかあったようですが、おおよそ水墨画が題材となった小説というのは聞いたことがありません。著者自身が「水墨画に興味のある人なんて殆どいない」と語っているにもかかわらず、それでも人氣必至の文学賞を受賞した本書は漫画化までされており、今秋には映画も公開されるほどの評判です。文章表現が素晴らしいこともさることながら、筆の描き方の手順や細かい動作の描写が実際に水墨画を知る者でないと描けないものとなっています。皆様も是非一度お手に取っていただければと思います。

この本を読んで私が初めて水墨画の手ほどきを受けた頃の日々が思い出されました。蘭も菊も、すべて実物を観察し写生することから始まりました。それからようやく手本を与えられ、潤墨を教わり筆法も字び構図の取り方を指導していただきました。風景画の遠くの小さな高景にも、柱の位置や軒の深さの実際を知らずに描いていると厳しく指摘されました。「上辺だけでなくその内部を知る努力をしない」と叱られたことが懐かしく思い出されます。四君子だけで何年もかかりましたが、今も私が水墨画を楽しんでいるのは、この真剣な時間があつたからだと思えます。とはいえず今は運動部員に実践びをさせる時代でもありません。この本を契機に、水墨画に興味を持ってくださる方が増えるように思っています。そんな初心者でも「気軽」に水墨画を楽しめて毎朝新しい発見や喜びがあるような場を設けることができればと考えています。

アンケート集約

- ・神戸市を中心とする兵庫県、大阪府等、79名の方から頂きました。
- ・公募展に初めて来ていただいた方のアンケートへの記入が、一番多かったです。記入いただきありがとうございます。
- ・水墨画と墨彩画のどちらも好き、次に、水墨画が好きが多かったです。
- ・好きな画題としては、多いものから順に、風景、花鳥、山水、動物、人物でした。
- ・公募展には、友人から聞いて来場くださった方が多かったです。今後もお知り合いの方に、お誘いくださるようよろしくお願いします。
- ・公募展には、お一人で来ていただいた方が一番多かったです。

頂いた感想は、水墨画のすばらしさに感動しました。墨の濃淡、グラデーション、構想、素晴らしいかったです。見ごたえのある作品が多くて、良かったです。次回も楽しみにしています。来年もあれば又来ます。出品者にとってうれしい感想をたくさんいただきました。報告いたします。



編集後記

今年も、コロナウイルス感染症拡大の影響で活動が難しい状況でした。そんな状況の中ですが、公募展が開催できて本当に良かったです。

まだまだ、今後が見通せない状況が続きますが、来年の公募展も開催する予定で、準備を進めています。

これからも、多くの方が出品してくださることを、期待しております。よろしくお祈りいたします。

編集委員

2023年全国公募

兵庫県水墨画協会公募展 予定

- ・搬入 2023年5月30日(火)
- ・授賞式・懇親会
2023年6月8日(木)
- ・搬出 2023年6月11日(日)